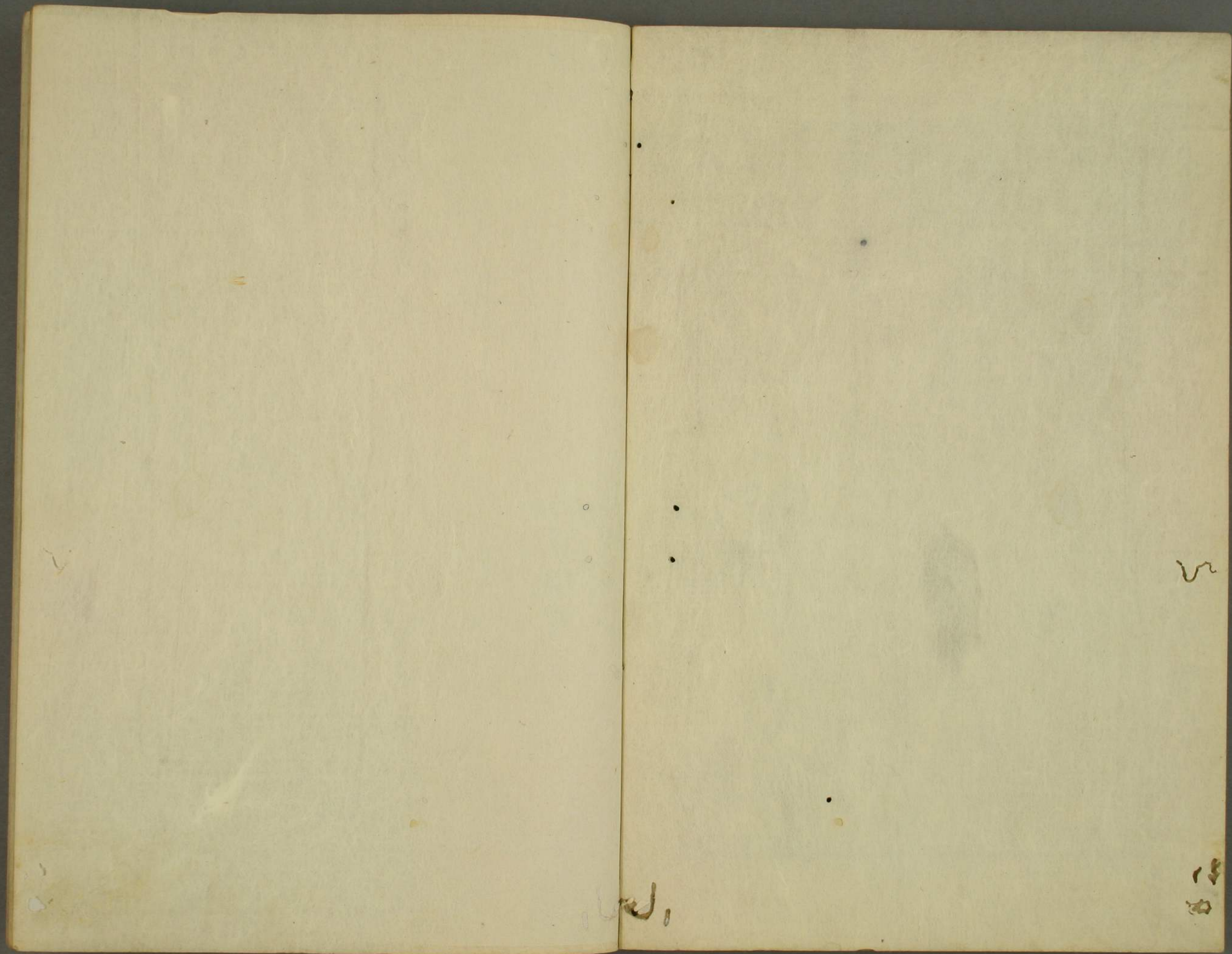




獨吟

特別
子12
3643
23





v

18

18

物以改正目錄

一 音春

十四 乞巧夕

二 三元

十五 星夕

三 人日

十六 中秋節

四 桃花節

十七 三五夕

五 上巳

十八 湯投節

六 三月盡

十九 室湯



七 朱夏

廿九日十三夜

八 更衣

廿九日晝

九 後蒲節

廿五日

十 端午

廿三日

十一 夏被

廿四日

十二 素秋

廿五日

十三 処脩節

一 音書

^音 夫音湯の音は風おららぬ枝を
 あらみらり音柳乃急絶と松の
 葉ちちりりきりて西木りりつ
 らあがきせりねあひさきさき
 然れ志すまは四不豊りある東
 南よ日長田よ照して西水よ雲

おさまりの天下の事と時あり
四方の事と時あり
君の侍あるつ羽衣まのま
あはれそむにまぬ若ほのうら
なまじく治る國のまつりごと
あやあびさうまといはる春の
まらなま栄約は侍りたあ

はよさるゆくは侍りたあ

二二五

剛千里の内も長田より高岩の雲
みさまの事と時あり
らハみよりまて四方よあは
福まの事と時あり
志まの國を卯まであびま

たふ沈時乃花萬代に浪く
花も海に代とわき

三人日

^上剛 乃 雲乃 あり たる 雲の 雲 霞
草 葉 あり けり 月 影 あり
心 けり あり けり あり けり あり
あり けり あり けり あり けり あり

桃花節

^上剛 三 千 年 乃 あり けり あり けり
花 咲 けり あり けり あり けり あり
君 代 あり けり あり けり あり けり
み けり あり けり あり けり あり けり
も あり けり あり けり あり けり あり
ある 時 あり けり あり けり あり けり
桃 の 花 あり けり あり けり あり けり

やよひり上れ己の日は
あ花ふ別ぬるもらるる
まらもろとたあたらまりゆ
心ちしらす盡心をゆく
夕暮るも極るふあぬ流る
まのあく

五上巳

桃乃花咲や三月れみりのあ
わささ流るる
流るる水乃面より
盡ハ誰ともはてめり行
はく花の白ひまき
時とや影豊うぬる時とや

六二月盡

^上春^レちき^レる^レ處^レ乃^レ衣^レ花^レの^レ袖^レ宿^レの^レ楳^レ

ふぬ^レき^レり^レき^レく^レ行^レや^レ名^レあ^レし^レと^レほ

ふ^レた^レう^レ色^レ神^レ代^レ志^レ志^レの^レ日^レ志^レ影^レも^レ句

あ^レや^レ夜^レあ^レこ^レ乃^レ松^レあ^レか^レつ^レま^レさ^レる^レ氣^レ色^レの

^上言^レ約^レあ^レは^レあ^レつ^レこ^レ乃^レ河^レよ^レと^レふ^レく

ま^レき^レた^レと^レい^レふ^レ山^レう^レあ^レも^レあ^レと^レも^レみ^レも

ま^レの^レこ^レも^レ思^レつ^レま^レ乃^レぬ^レ郷^レよ^レ花^レの

ゆ^レら^レの^レ言^レ志^レあ^レあ^レま^レる^レゆ^レら^レの

色^レ行^レま^レあ^レゆ^レら^レの

七 朱 夏

^上乃^レく^レを^レぬ^レの^レこ^レれ^レも^レか^レ乃^レさ^レふ^レ流^レあ^レれ^レ

君^レ乃^レ流^レり^レき^レよ^レ志^レ乃^レあ^レあ^レ夏^レ木^レ立

緑^レ色^レも^レい^レと^レ深^レう^レ水^レ田^レよ^レう^レり^レあ

松^レの^レ歌^レ千^レ竹^レ乃^レと^レみ^レあ^レ乃^レと^レそ^レひ^レく

清^ニ層^ニも^ニ暖^ニも^ニさ^ニの^ニり^ニふ^ニは^ニ衣^ニ束^ニ
か^ニそ^ニ官^ニ人^ニの^ニ錦^ニの^ニ指^ニ乃^ニ白^ニ袷^ニ衣^ニさ^ニ
ま^ニ夏^ニさ^ニる^ニき^ニさ^ニか^ニか^ニきた^ニも^ニ夏^ニ
つき^ニた^ニれ^ニ

後蒲葺

^上剛^下ほ^ニと^ニき^ニす^ニあ^ニる^ニや^ニ五^ニ月^ニれ^ニあ^ニあ^ニ
草^ニび^ニた^ニも^ニも^ニゆ^ニ々^ニあ^ニが^ニた^ニぬ^ニの^ニ長^ニ

た^ニき^ニあ^ニこ^ニあ^ニる^ニもの^ニを^ニ君^ニが^ニ代^ニふ^ニ
び^ニき^ニさ^ニる^ニ物^ニさ^ニる^ニけ^ニら^ニぐ^ニく^ニ薬^ニ
乃^ニあ^ニや^ニ免^ニ宿^ニと^ニれ^ニ行^ニ端^ニの^ニ後^ニ白^ニ
ま^ニぬ^ニく^ニも^ニの^ニり^ニ君^ニ乃^ニ清^ニ代^ニあ^ニれ^ニ
や^ニの^ニり^ニた^ニ君^ニ乃^ニ清^ニ代^ニあ^ニれ^ニや

端午

^下剛^上遠^ニが^ニ病^ニも^ニき^ニあ^ニあ^ニる^ニを^ニ薬^ニ乃^ニたま

すめ^元で^十た^一き^一敷^一う^一せ^シぬ^コ秋^ニを^ラ同^一じ^一に^一

十三 短編 節

上^レ寺^レ剛

蕭^一紙^一を^一涼^一れ^一と^一真^一影^一共^一の^一誰^一り^一計^一
會^一し^一て^一一^一時^一よ^一秋^一あ^一ら^一む^一鳥^一鶴^一の^一橋^一
乃^一こ^一と^一よ^一紅^一城^一を^一敷^一二^一星^一の^一危^一ら^一れ^一
前^一よ^一内^一冷^一や^一り^一な^一り^一さ^一る^一夕^一月^一は^一え^一
近^一秋^一と^一志^一る^一手^一に^一秋^一の^一あ^一れ^一や^一年^一

を^一絶^一て^一か^一り^一ぬ^一の^一織^一作^一の^一ズ^一
契^一り^一あ^一ら^一き^一る^一久^一ら^一る^一大^一河^一
浪^一立^一る^一が^一裁^一萬^一代^一の^一秋^一を^一き^一く^一
あ^一せ^一ふ^一渡^一す^一か^一ら^一き^一る^一だ^一ら^一も^一絶^一
き^一ぬ^一ぞ^一あ^一ら^一り^一橋^一を^一絶^一き^一ぬ^一た^一め^一
志^一なり^一

十四 乞巧夕

乃露のまよづく 遠あひくより
よさし 恨をそはも 叙はるる 五
将の明も 母も 頻の涼に 叙
乃色よ ぬるき ばやわのれ 踏
きあひ くる 横雲乃 流とあり
きり

中秋節

あまバ又秋乃 なるばも ぬへ
よひ乃月 悲おし ぬらハ
やきと びあま 名を たら 月
曇りあく 千里れ 卯 遠 満も
久々の月乃 かつれ 写山
ばや 生死 歎 可く ぶく 山 絶 ぬ
石清水 ばも あく 生死 今 未 ぬ

かみきりりくよがめたる書画を
きぬ泉すめてくかりをぬる泉
すめさたるうりまを

九宮湯

剛下ろし
深きふの寝骨見りまふおれ
わくわくほのくたとあきゆる庭
あきゆる霜ぬぐくすきり何らぬ

のまありておろをちおれん庭れ
面籬子白ゆ白菊乃をぬる
あきゆる雅もさる十年あ秋や
あきゆるしるふ年の秋やあきゆる

九月十三夜

上サシ
剛
長月乃今あのをををがれど
あきゆるあきゆる雲乃をぬるゆきばを

志きいともあつるゆへに
 賢くせりらえぬ
 曇りたる世に
 移く人れ
 今もひるみ
 今も月れ
 今もあはれ

九月書

夕日歎らともや
 夕日歎らともや
 夕日歎らともや
 夕日歎らともや

した明あをきや
 身をよ
 今日
 時雨
 長月
 霜
 虫
 心

乃りまみら城をぬれと平向
て竹秋志名疎を思ふやうか
名あをたゆめうか

志名

剛 ^上 志名山はてのち海よまむ
千鳥やちよとよあま色まかり
白浪乃ちま松根乃平向ま

我世までみなりぬらん松萬
竹乃ま清けく君が流代をぞ
後ふあれ志名山の雨はあれ
とて色松をたれ色あつす
^上 久る乃あまきる雲乃白妙ふ
かく五百室つゆりて豊乃年
志名あまし何るり四方乃四松原

みきう〜れ〜あま〜きたの〜
湯代が〜たの〜
か〜

和言

^上あろ〜
山あ〜
ま〜
月千里の〜
あき

霜や〜
直の〜
志乃〜
深くも〜
忠に〜

歳言

高^上ありて年^下の言^上ぬる時^下也^上
然^上に如^下城^上あぬ松^下ぐえれおほ^上言^下を
ま^上の深^下き^上り^下に^上あり^下ま^上に^下
ふれ^上あ^下井^上の^下こ^上り^下知^上る^下梅^上も^下咲^上
そ^上あ^下る^上る^下由^上に^下く^上喜^下べ^上け^下
^下難^上波^下津^上の^下む^上り^下よ^上く^下ふ^上時^下も^上れ

や^上糖^下た^上の^下氏^上の^下あ^上ふ^下さ^上ふ^下
ひ^上ら^下く^上も^下ふ^上や^下方^上忠^下心^上調^下
物^上回^下も^上も^下道^上直^下又^上船^下踏^上乃^下れ^上も^下
心^上の^下ま^上る^下あ^上の^下浪^上色^下志^上の^下く^上ま^下九^上
室^上の^下雲^上も^下松^上は^下ま^上の^下り^上九^下首^上の^下
ち^上も^下を^上は^下ら^上ま^下あ^上れ^下と

亦五 奇人言

山ニ之ノ志シ道ダ乃ハ殆シとスふタとシぬ
シもシもシ人ニぬニ入リしヨりハ花ノの私
とシく正しめれず月ノ秋も思ひ
シきし心ヨりきぬとらきあらわし和
舞ハ乃ハ浦ノ波ノうららわくもらわひ
あらる人の言の成まはしるもらうがい
志ス東ノぬをラキ凡ノきこうとを

乃ハあらむもらうくもあの池ノ水ハい
うらめるがらてあらむあらみ成と
志スだらもらうらわらひの世ハ残る
あらる乃の志の世ハ残
乃ハあらむもらうて見ん人乃ハあらむもらうん
とシもたらしからばうらわいしもつら
乃ハあらむもらうて見ん人乃ハあらむもらうん
乃ハあらむもらうて見ん人乃ハあらむもらうん

